# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事 業 名 | 令和６年度　障害者の生涯学習支援モデル事業（１回目講座） |
| テ ー マ | 陶芸作品づくり① |
| 日　　時 | 令和６年７月２０日（土）　１３：３０～１５：００ |
| 場　　所 | 中央公民館　創作室 |
| 参加人数 | 参加１０名(障害者家族１組２名、一般家族４組８名) |
| 講　　師 | 戸田 誠子 氏 |

事業内容等

１３：００　受付（佐藤）

１３：３０　講座開始

今回は、土を捏ねて形にする。切り貼りすると空気が入り込み、焼いたときに割れやすくなるので注意。お互いにコミュニケーションを取り楽しみながら作業する。

土を捏ねる作業は手触りがよく、思い思いの作品を作ることができ、障がいをもつ子どもに人気の講座。まだ体験したことのない方には積極的に参加してもらいたい。

障がい者の一家族から、とても貴重な体験になったと感想があった。

出来上がった作品は、１０月４日～７日に行われる公民館祭で展示する。

# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事 業 名 | 障害者の生涯学習支援モデル事業（２回目講座） |
| テ ー マ | ユニカールでレクリエーション |
| 日　　時 | 令和６年８月２４日（土）　１０：００～１２：００ |
| 場　　所 | 勤労青少年ホーム　軽運動室 |
| 参加人数 | 参加８名（内、障害者３名） |
| 講　　師 | 能代市ユニカール協会１０名 |

事業内容等

９：００　会場準備

９：３０　受付開始、講師到着会場準備

１０：００　講座開始

・能代市ユニカール協会の方々がレーンの準備。

・はじめにユニカールとはどのような競技なのか説明。

・今回は初めての方もいるので体験＆ゲームとし簡単なルールで行う。

・ストーンの持ち方や投げ方を教わり練習投球。なかなか思うところに投げられず悪戦苦闘したが何度か投げるとコツを掴み始めた。

・１チーム３人編成で４チーム作りリーグ戦を行った。

・老若男女だれでも行うことができるスポーツでレクリエーションとしては最適と感じた。障害のある方もその障害に合わせてルールを変えられるので参加しやすい。

# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事業名 | 令和６年度　障害者の生涯学習支援モデル事業（３回目講座） |
| テーマ | 陶芸作品づくり② |
| 日　　時 | 令和６年８月３１日（土）　１３：３０～１５：００ |
| 場　　所 | 中央公民館　創作室 |
| 参加人数 | 参加９名(障害者家族１組２名、一般家族３組７名) |
| 講　　師 | 戸田　誠子　氏 |

事業内容等

１３：００　受付

１３：３０　講座開始

素焼き状態の作品にヤスリがけをする。尖った部分は壊れやすいので注意。ヤスリをかけたらスポンジで優しくふき取る。釉薬で好みの模様をつける。

中央公民館では親子向けの講座でも陶芸講座を行っており、定員に達したため申込みできなかった参加者を当講座に案内し参加いただいた。

アンケートでは子どもと一緒に体験できて良かった、なかなか陶芸に触れることがないので良い経験ができたという声があった。

毎年行っている事業でも初めて参加する人にとっては貴重な体験となった。

出来上がった作品は、１０月４日～７日に行われる公民館祭で展示した。

# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事 業 名 | 障害者の生涯学習支援モデル事業（公開講演会） |
| テ ー マ | 共生社会の実現に向け今、私たちに求められること |
| 日　　時 | 令和６年９月１６日（月）　１３：３０～１５：００ |
| 場　　所 | 文化会館　中ホール |
| 参加人数 | ２０名 |
| 講　　師 | 秋田大学大学院教育学研究科<br>教授　藤井 慶博　氏 |

事業内容等

・今障害者は支援されるだけでなく、障害者が健常者を支援する存在という考え方が進んでいる。
・共生社会とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者が、積極的に参加・貢献していくことができる社会のこと。
・障害による困難さの体験では、紙をおでこにあてて自分の名前を書いたり、目を閉じて紙を折るなどの体験をした。
・障害者の権利保障とバリアバリューについて考える時、公共施設では状況に応じた合理的配慮が重要になってくる。
・障害の有無にかかわらず生涯学習は必要である。
・今わたしたちにできることは、合理的配慮を拡げ、障害者が気を遣わなくてもよい文化を創っていくこと。

【所感】
・体験では知的障害者が文字をどのように認識しているか、また書こうとしてもなかなかうまくいかない状況を体験できた。
・障害者の目線から社会を見た時に、どのように見えているのかということを先生の講演から学ぶことができた。

# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事業名 | 令和６年度　障害者の生涯学習支援モデル事業（４回目講座） |
| テーマ | 防災講座 |
| 日　　時 | 令和６年９月２１日（土）　１０：３０～１２：００ |
| 場　　所 | 青少年ホーム集会室、調理室 |
| 参加人数 | 参加５名(障害者２名、一般３名) |
| 講　　師 | 秋田県生涯学習センター<br>チームリーダー柏木氏、布施氏、佐藤氏、佐々木氏 |

事業内容等

１０：００　受付（佐藤）

１０：３０　講座開始

【講座の流れ】

①プロジェクターを使った防災に関するワークショップ(クイズ)

②ポリ袋クッキング

③新聞紙を使った防災グッズづくり

【概要】

はじめに防災に関するクイズで防災意識を高める。その後ポリ袋クッキングで米の炊飯準備。ポリ袋は耐熱性のものを使用するのがベスト。耐熱でないと破けることがある。米が炊きあがるまで新聞紙を使って防災グッズ(皿、ごみ袋、スリッパ)づくり。米が炊きあがり試食。

【所感】

全体を通して講座の流れがとてもスムーズだった。防災に関するクイズで気持ちをリラックスし、参加者同士の交流も生まれたところでポリ袋クッキングの準備。米が炊きあがるまで時間があるので新聞紙で防災グッズづくり。防災グッズができた頃に米が炊きあがり試食。

他の講座でも待ち時間が生じる場合、進め方のヒントをいただき勉強になった。

次項写真

防災クイズ

ポリ袋クッキング

新聞紙でスリッパづくり

ポリ袋クッキング炊きあがり

# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事 業 名 | 障害者の生涯学習支援モデル事業　公民館祭で作品展示会 |
| テ ー マ | 講座で作成した成果物を展示 |
| 日　　時 | 令和６年１０月４日～７日（４日間） |
| 場　　所 | 中ホール　ホワイエ |
| 入場者数 | 延べ１，０１０名 |

# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事 業 名 | 障害者の生涯学習支援モデル事業（５回目講座） |
| テ ー マ | フライングディスクでレクリエーション |
| 日　　時 | 令和６年１０月１２日（土）　１０：００～１１：３０ |
| 場　　所 | 中央公民館　中庭 |
| 参加人数 | 参加３名（内、障害者１名、高校生ボランティア１名、一般１名） |
| 講　　師 | 秋田県障害者フライングディスク協会より２名 |

事業内容等

９：００　会場準備

９：３０　受付開始

１０：００　講座開始

・晴天で中央公民館の中庭にコースを設置。

・中央公民館の中高生ボランティア育成講座とコラボレーションした。

・はじめにディスクの持ち方や投げ方を練習。

・真っすぐに飛ばすことが意外と難しい。

・遠くに飛ばす競技、ゴールに入れる競技、輪に通す競技の三つを体験。

・ルールはゴルフとほぼ一緒。何投目でゴールしたかを競う。

・目の不自由な方用に音の鳴るゴールがあるなど、珍しい競技アイテムの数々を紹介いただいた。

・障害のあるなしに関わらず、多世代で楽しめる競技で今後も企画したい。

# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事 業 名 | 令和６年度　障害者の生涯学習支援モデル事業（６回目講座） |
| テ ー マ | 七宝焼きづくり |
| 日　　時 | 令和６年１０月２０日（日）　１０：００～１２：００ |
| 場　　所 | 中央公民館　第２研修室 |
| 参加人数 | 参加６名(障害者２名) |
| 講　　師 | 今野祥子 氏 |

事業内容等

９：３０　受付

１０：００　講座開始

・始めに七宝焼きについての説明。

・釉薬をまんべんなく丁寧に塗る。

・一度窯に入れて焼く（１分程度）

・熱が冷えたら色合いをイメージして色を塗る。

・再度窯に入れて焼く（１分程度）

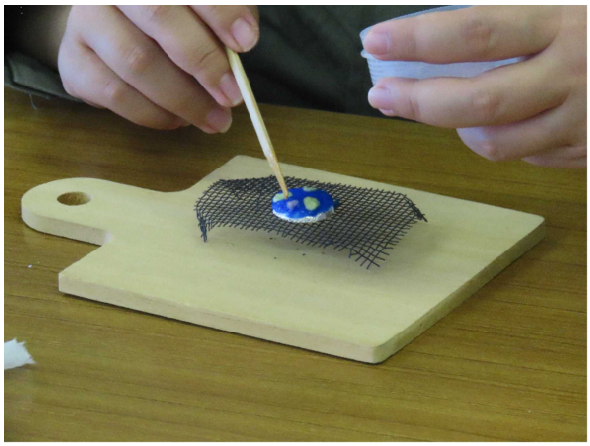
・色は焼き上がると綺麗な色味が出てくる。

・ブローチにするかネックレスにするか決める。

・意外と細かい作業でやりがいがある。

・自分で色を決めて取り組めるのでワクワク感が膨らむ。

・毎回アクセサリー講座を楽しみに参加する方もいる。



# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事　業　名 | 令和６年度　障害者の生涯学習支援モデル事業（７回目講座） |
| テ　ー　マ | のしろまち灯りイベントに向けたロウソクづくり |
| 日　　時 | 令和６年１０月２７日（日）　１０：００～１１：１５ |
| 場　　所 | 中央公民館　第２研修室 |
| 参加人数 | 参加２名(障害者家族１組) |
| 講　　師 | のしろまち灯り実行委員会　能登祐子 |

事業内容等

９：３０　受付（佐藤）

１０：００　講座開始

・のしろまち灯りイベント(12月14日)に向けて灯りとなるロウソクづくり。

・お寺で廃棄となったロウソクをやかんに入れて溶かす。

・溶け残った芯は、ピンセットで寄せておく。

・好みの色にするためクレヨンを細かく砕いて溶けたロウのやかんに入れる。

・溶けたロウを空き瓶やカップに流し入れる。ロウが固まる直前に芯を入れる。

・作成個数は40個。

・今回の参加者はこれまでもロウソクづくりに参加していて作業工程が分かっていたのでスムーズに作業が進んだ。

# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事 業 名 | 令和６年度　障害者の生涯学習支援モデル事業（８回目講座） |
| テ ー マ | のしろまち灯りイベント（ロウソク設置、点灯） |
| 日　　時 | 令和６年１２月１４日（土）　１６：３０～１８：００ |
| 場　　所 | 中央公民館 |
| 参加人数 | 参加４名（障害者家族１組、一般家族１組） |

事業内容等

１６：００　受付（佐藤）

１６：３０　ロウソク設置開始

・ロウソクの設置方法の説明。

・風が強いため、ロウソクは屋根のある屋外へ設置。

・１７：００の時報と同時に点灯（他のイベント会場と合わせている）。

・２０：００イベント終了とともに撤去。

・地域のイベントとタイアップして講座を行い、参加者にとっても地域の方々と交流ができて良かった。

# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事 業 名 | 障害者の生涯学習支援モデル事業（９回目講座） |
| テ ー マ | 音楽療法講座 |
| 日　　時 | 令和６年１２月２１日（土）　１０：００～１１：００ |
| 場　　所 | 文化会館　リハーサル室 |
| 参加人数 | 参加１７名（内、障害者７名） |
| 講　　師 | 音楽療法士　平川真実 氏 |

事業内容等

９：００　会場準備

９：３０　受付開始、講師到着準備

１０：００　講座開始

・講師持ち込みのピアノに合わせて冬の歌を数曲歌う。

・手拍子や合いの手を入れて体の動きを加える。

・音楽に合わせ「は行」を使っていろいろな“笑い方”に挑戦。

・椅子に座ったままできるヨガを体験。

・誰でも簡単に出来る体験で、障がいの重さによるハードルが低い。

・参加者の様子を見て、いろいろなプログラムにアレンジが可能。

・機材は全て講師持ち込み（電子ピアノ、プロジェクター、スクリーン、ノートパソコン)。

# 事業実施結果報告書

報告：佐藤邦彦

| | |
|---|---|
| 事 業 名 | 障害者の生涯学習支援モデル事業（１０回目講座） |
| テ ー マ | もちつきレクリエーション |
| 日　　時 | 令和７年１月２５日（土）　１０：３０～１２：００ |
| 場　　所 | 働く婦人の家　託児室、実習室 |
| 参加人数 | 参加１６名（内、障害者８名） |
| 講　　師 | いちごの会　３名 |

事業内容等

８：３５　会場準備、講師到着

１０：００　受付開始（佐々木）

１０：３０　講座開始

・講師が持参した餅つき機で持ち帰り用の餅をつく。

・ついた餅をちぎる作業は高温で手早い作業になるので講師が実習室で行う。

・あんこ、ごま、きなこの準備。

・餅つき体験用の米を「はんごろし」にする。

・定刻どおりもちつきスタート。一列に並んで一人10回程度つく。順番に並びなおして２順目が終わると餅が完成。杵は大人用と子ども用があり自分でどちらか選んでつく。

・皆で一つきごとに「よいしょ」と声をかけて盛り上がった。

・もちつきが初めてだったり幼い頃にやった記憶があるくらいの方々が多く、もちを突く感触を楽しんでいる様子だった。

・つきあがった餅を小分けにし、味付けをして試食。

・食べ物関係の講座は、支援学校同窓会からの参加希望が増える傾向がある。